

大分県ハンドボール協会 創立50周年記念誌

The 50th. Anniversary Comemorable Issue
of Oita Handball Association



大分県ハンドボール協会 創立50周年記念誌

目 次

- ◆ 祝辞
公益財団法人大分県体育協会 会長 広瀬 勝貞 . . . P 1
- ◆ ごあいさつ
大分県ハンドボール協会 会長 麻生 栄作 P 2
- ◆ 大分県ハンドボール協会 設立の経緯 P 4
- ◆ 歴代役員一覧 P 5
- ◆ 専門部活動報告（強化部、普及部、審判部、広報部） P 7
- ◆ 寄稿（全国・県内で活躍する選手より） P 15
- ◆ 県内チーム紹介 P 27
- ◆ 大会結果（全国、九州、県内大会） P 63



お祝いのことば

公益財団法人大分県体育協会
会長 広瀬 勝 貞

大分県ハンドボール協会が、めでたく設立50周年を迎えられ、記念誌が発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

貴協会が昭和37年に設立され、ハンドボール競技の普及発展はもとより、大分県のスポーツ振興に大きく貢献してこられましたことに、深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

貴協会の歴史は、昭和41年の大分国体に向けた選手強化から、同国体での教員の部3位、高校男子の部4位入賞という成果を礎として発展してこられました。それ以降、高体連ハンドボール競技専門部が中心となり競技力を向上させるとともに、小学生（ジュニア）の指導にも着手し、中体連での競技力向上に繋げるなど、競技団体関係者が一丸となった選手育成を行われました。この一貫指導体制での選手強化は、全国高校総体での優勝をはじめ、数々の全国大会における素晴らしい成果につながっています。

また、その成果を確実に受け継ぎ、平成20年開催の「チャレンジ!おおいた国体」では、少年男女がそれぞれ3位入賞の活躍で、大分県の天皇杯・皇后杯獲得に貢献をしていただいたことは記憶に新しいところです。

さらに、宮崎大輔選手をはじめとする大分県で育成された選手がトッププレーヤーとなり、全国や世界を舞台に活躍されていることは、誠に喜ばしいことでもあります。これまでの貴協会の輝かしい活躍に加え、今後の国民体育大会をはじめとする全国大会などでの活躍は、県民に勇気と活力を与えてくださるものであり、一層の活躍を期待するところです。

結びに、50年の足跡を残された貴協会の関係各位の御労苦に深く思いを馳せるとともに、大分県ハンドボール協会が次の半世紀に向け力強く新たな一歩を踏み出されることを祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。



ごあいさつ

大分県ハンドボール協会

会長 麻生 栄 作

大分県ハンドボール協会は、昭和 37 年に設立以来、今年度創立 50 周年を迎えました。協会創立 50 周年記念事業に際し、大分県知事・大分市長のご臨席の栄を賜り、日本協会や九州各県協会関係者、県体育協会や県教育委員会をはじめ多くの活動をお支え、ご指導いただいております関係する皆様方のご列席を賜り、心から感謝申し上げます。

そして何よりもハンドボールを愛し続け、支えて頂きました多くの会員の皆様に重ねて御礼申し上げます。

また、永年当協会を支え、熱心な指導により協会発展の為にご尽力いただき、本日感謝状を授与されます皆様方に感謝の意を表し、心よりお慶び申し上げます。

大分県ハンドボール協会は、昭和 23 年 3 月 30 日に設立され、昭和 24 年第 4 回東京国体に向けて九州選抜チームの強化合宿が大分で初めて開催された様ですが、一旦協会は消滅後、昭和 37 年に加藤亨会長、福島成人理事長のもと再設立されました。

ハンドボールは、「走る・跳ぶ・投げる」という運動における基本 3 要素が求められ、さらにボディーコンタクトという格闘的な要素も含まれる総合スポーツであり、ダイナミックなシュートシーンやスピーディーな試合展開が魅力となっています。オリンピック競技でもあり、本場ヨーロッパでは、サッカーに並ぶ人気を誇っております。1898 年に人工呼吸法の一つ「ニールセン法」を考案したオルガー・ニールセンが考案し、北欧を中心にスタート、1906 年に最古のハンドボール競技規則が刊行されました。

日本では、1922 年に大谷武一氏が大日本体育学会に於いて 11 人制を紹介、1938 年に日本ハンドボール協会を設立、1952 年に 7 人制がはじめて行われ、以降 7 人制が普及しました。

大分県では、九州はじめての強化合宿が行われた歴史的背景もあり、歴代会長や理事長

をはじめとする関係者のご尽力のおかげで、着実な成果を出しております。各種別において、全国大会や国体で輝かしい成績をおさめております。さらに、日本代表や日本リーグで活躍する選手をたくさん輩出しています。

最近では、本県出身の宮崎大輔選手の海外挑戦やマスメディアへの露出によって、ハンドボール人気も上がってきており、下郡スポーツ少年団や滝尾中学の全国優勝、国体少年男子の3位入賞など、県民に明るいニュースを届ける例は枚挙にいとまがありません。

これも私生活を犠牲にした熱心な指導者や保護者、協力をいただく皆様のおかげです。行政や体育協会の関係者の後押しも言い尽くせません。重ねて深く感謝申し上げます。

この度、50周年の節目を迎え、3つの記念事業を行うこととなりました。

さらに、ハンドボールの裾野を広げるために、記念誌を作りこれまでの歩みを記録するとともに、協会ホームページを充実し、普及啓発強化に務めます。また、国内最高峰のプレーである日本リーグの試合を招致し、目の前で見える機会を作り、ハンドボールの魅力を伝えて参ります。

ハンドボールは、運動の基本3要素が求められるスポーツでもあり、学校教育の体力向上にも必ず寄与するスポーツです。その為にもさらに、学校現場での普及啓発にも力を入れ、学童生徒の体力向上の努力を惜しみません。

本日の感動を胸に、100周年に向け、協会一丸となって、県民に勇気と元気を届け続けるよう、新たな決意で、次の一步を歩み始めます。皆様方のさらなる大分県ハンドボール協会へのご支援ご協力をお願い申し上げ、御礼とさせていただきます。誠にありがとうございました。

■□■ 大分県ハンドボール協会 設立の経緯 ■□■

昭和23年(1948) 日本協会から要請を受けて設立。日本協会・県体育協会に加盟申請

初代会長 加藤 亨 氏
副会長 敷島 唯雄 氏
理事長 福嶋 成人 氏
理事 二宮 五郎 氏、角田 保範 氏 就任

会長の加藤 亨氏 自身が旧制杵築高校で県下で初めて体育教材としてハンドボールを授業に取り入れ、体育研究会でも発表した。この時登録(=発足)したチームは、男子は国東農業高校、女子は鶴崎家政高校であった。何も無い中でのスタートであった。

昭和24年(1949) ~ 27年(1952) 国東農業高校に赴任した加藤 亨 氏は同僚教員に積極的に働きかけ、20数名の部員を集め猛練習した。

国東農業高校(男子)、鶴崎家政高校(女子)の2校は全九州高校選手権・九州国体予選大会等に参加していたが、その後活動は停滞。協会自体も自然消滅して、休止状態となった。

昭和30年(1955) 京都から日田高校に赴任した疋田 忠 氏が、体育授業と同好会活動の中でハンドボールの指導を始めた。

しかし疋田氏は昭和33年(1958)に県教育委員会に転出となり、芽生え始めたハンドボールの芽は定着しなかった。

昭和36年(1961) 疋田 忠 氏が臼杵高校に転出し、部活動を発足させ本格的に始動した。

昭和41年(1966)第21回大分国体「剛健」国体の誘致が決定したのを受けてのこと。

昭和37年(1962) 大分県ハンドボール協会再発足

第2代会長 松井 慶事 氏
副会長 角田 保範 氏、清松 正隆 氏
理事長 疋田 忠 氏 就任

協会の生みの親である初代会長の加藤氏、角田氏、そして広畑 九州男 氏、吉渡 正弘 氏、福田 稔 氏、藤田 悟 氏らが協議して、協会再発足を進めた。松井氏の地元である中津市が国体開催地であることから会長に就任。(その後、会場は大分市に変更)

この後現在に至るまで活動が途切れることなく継続されていることから、本協会では再発足した昭和37年(1962)を、『創立の年』と位置付けている。

